

テューリンゲン州の歴史的側面

ユリア・ロイトelfhuber (Julia Reutelhuber)



表紙・デザイン： ディエゴ・クレッセンティノ（Diego Crescentino）

日本語訳： 北村美樹

この出版物は、テューリンゲン州政治教育センター（Landeszentrale für politische Bildung Thüringen）の意見を表明するものではありません。本内容については著者が責任を負うものとします。

Landeszentrale für politische Bildung Thüringen
Regierungsstraße 73, 99084 Erfurt
www.lzt-thueringen.de

2017

ユリア・ロイテルフーバー
(*Julia Reutelhuber*)

チューリッゲン州の歴史的側面

目次

1. テューリンゲン州の方伯領
2. 宗教改革時代
3. 絶対主義と小邦分立
4. 旧体制の復活と改革
5. ワイマール共和国のテューリンゲン州
6. 防衛地区としてのテューリンゲン州
7. 強制収容所、兵器、強制労働
8. ドイツの分割
9. 東独平和革命
10. テューリンゲン州の再構成
11. 古典主義の都ワイマール
12. ワイマール国立バウハウス (1919–1925)



LZT

クロイツブルクの近くのヴェッラ橋。1223年に建てられた、テューリングェン州で最も古い天然石の橋。

1. テューリンゲン州の方伯領

ルードヴィング家はドイツのテューリンゲン地方を支配した一族で、1040 年に最盛期を迎えました。ヴァルトブルク城（1067 年建設）はルードヴィング家の権力の象徴でした。

1131 年にルートヴィヒ 1 世は方伯の称号を授与されました。この新しい政治的地位の基盤により、テューリンゲン州は最も影響力のある公国の 1 つになりました。国王に直接従属していたため、バイエルン、ザクセン、シュヴァーベンの伝統的な公爵とほぼ同等の権力を持っていました。さらに、方伯の息子たちはヨーロッパのエリートの貴族の家と結婚しました。（1221 年、ルートヴィヒはハンガリー王の娘エリザベスとの結婚）

ヘルマン 1 世方伯は芸術を愛しており、彼の支配下において（1200-1217）テューリンゲン州の裁判所はヨーロッパ文化生活の最も重要な場所の 1 つになりました。

1206 年には、当時最も有名な詩人たちがヴァルトブルク城での「詩合戦」のために集まりました。

子孫のいないハインリヒ・ラスペ 4 世方伯の死後、1247 年にテューリンゲン州のルードヴィング家の時代は終わりました。継承戦争の後、方伯領はヘッセンとテューリンゲンの 2 つの領土に分割されました。



LZT

エアフルトのアンガーに位置するルター記念碑。 マルティン・ルターはエアフルトにて 1501 年から 1511 年まで暮らしていました。

2. 宗教改革時代

マルティン・ルターのテューリンゲン州での滞在は、この地域での宗教改革に貢献しました。都市では司祭たちがルターの教えを説き、幅広い改革主義者の考えを発展させました。

改革の中心はアイゼナハとワイマール、及びオルラミュンデでした。特に文化的に重要なのは、ルターが1521年から1522年までヴァルトブルク城に滞在し、そこで聖書をドイツ語に翻訳したことです。ザクセン選帝侯ヨハンは改革派の信仰を公言しました。しかし、社会的および宗教的対立は、1524年にテューリンゲンでも農民の戦争につながりました。トーマス・ミュンツァーは今日に至るまで、宗教的問題と社会的問題を組み合わせた宗教改革者として知られています。1525年5月15日、農民軍はフランケンハウゼンの戦いで同盟の貴族に敗れました。

農民戦争後初めてテューリンゲン州にルーテル州立教会が設立され、マルティン・ルターの教えに従って教会に改革がもたらされました。アイヒスフェルトを除くテューリンゲン州全体で宗教改革が行われました。



LZT

ゴータにあるフリーデンシュタイン城は 1643 年から 1654 年にかけて建設されました。

3. 絶対主義と小邦分立

17 世紀および 18 世紀のテューリンゲン州では、多くの支配者が主要なヨーロッパ諸国の統治スタイルを模倣しました。彼らは狩猟に特化した宮殿（例えば、ゴータのフリーデンシュタイン城）を建設し、庭園や公園を作り、芸術を促進しました。そうすることで、彼らは絶対主義者の主張を強調しました。

当時のテューリンゲン州は非常に多様で、10 人の公爵、10 の領土、4 つの行政郡、1 つの大司教領地と 2 つの帝国都市から成っていました。ヴェッティン家は最も重要で、ワイマール、ゴータ、アイゼナハの公爵を統治していました。しかし、権力の細分化が行われ、支配権が制限された副次的な支配者が生まれることもありました。権力者は官僚制度を構築し、効果的な中央集権化政策を行うことで国家能力の強化を試みました。

ザクセン＝ゴータ＝アルテンブルク公であったエルンスト 1 世（1601-1675）は「大人と無知な人々を教育する」という特別な政策を行い、1642 年に彼の領土にて 5 歳から 12 歳までの子供に対する義務教育を導入しました。



Wikimedia Commons

フェルディナント・ホドラーが1908年に描いた『1813年の解放戦争へのイエナの学生の出国』

4. 旧体制の復活と改革

ナポレオンに対する解放戦争の後、国民自由主義運動はテューリンゲン州に好ましい状況をもたらしました。

1815 年、学生の「友愛」がイエナで設立され、その後ドイツ全土で同様の「友愛」が設立されました。ザクセン・ワイマール大公国は 1816 年に憲法を制定し、ドイツで最初の立憲君主国の 1 つになりました。

学生の更なる政治化を推進した 1817 年のヴァルトブルク祭は、今日でも特によく知られています。彼らは地方政府の弾圧を要求し、憲法上の君主制の下にドイツ帝国を創設することを主張しました。1819 年のカールスバート決議の後、国民自由主義運動は抑制されましたが、社会的および政治的な不満は 1848 年のテューリンゲン州での革命的な抗議行動にもつながりました。

1849 年の革命の失敗により、テューリンゲン州の革命評議会は解散しました。ドイツでのその後の回復にもかかわらず、テューリンゲン州の政治情勢は比較的寛容なままでした。



LZT

ワイマール共和国時代のテューリンゲン州議会の本部。今日のフランクフルト音楽大学の本拠地。

5. ワイマール共和国のチューリンゲン州

1918 年の 11 月革命の結果、ドイツの全ての君主は退位を余儀なくされました。チューリンゲン州では「小さなチューリンゲン」の同盟を求めた国の議会が選出されました。ドイツ帝国全体での選挙の後、国民議会はワイマールで会合を開き、帝国憲法を採択しました。その結果、ワイマール共和国と呼ばれる民主国家が誕生しました。

共和国の最初の数年間は、クーデター未遂により混沌とした状況でした。右翼のヴァルター・フォン・リュトヴィッツを中心として企てられたカップー揆（1920 年）により、チューリンゲン州は一時的に激しい紛争地域となりました。

チューリンゲン自由州の設立は、1920 年 5 月 1 日に、ワイマール、ゴータ、アルテンブルク、マイニンゲン、ルドルシュタット、ゾンダースハウゼン、ロイスの 7 つの小さな州から構成され、ワイマールは州都になりました。エアフルトとアイヒスフェルト等の他の地域は、チューリンゲン州に属さず、まだプロイセンのままであり続けました。

チューリンゲン州議会では、両党の間に顕著な対立があり、それが過激な政党の発展を後押しし、チューリンゲン州は社会主義の初期の政治的拠点となりました。



1937 年以降に建設されたワイマールの「ガウフォーラム」

6. 防衛地区としてのチューリンゲン州

ヒトラーユース（HJ）がワイマールの国家社会主義ドイツ労働者党（NSDAP；通称ナチス）の第2回全国会議で1926年に設立されました。NSDAPは、内務大臣および人民教育大臣としてのヴィルヘルム・フリックの下で1930年から1931年に掛けてチューリンゲン州の政治に参加し、ワイマール共和国で最初の地域となりました。

1932年にNSDAPの党首であったフリッツ・ザウケルは、チューリンゲン州政府の長官および内務大臣に選出され、権力の座を得ました。彼は、チューリンゲン州を「第三帝国」の「モデル地区」として紹介することを試みました。

ワイマールは、行政の中心的な権力として威厳のある国家社会主義（ナチズム）で地位を固めたため、ブーヘンヴァルト強制収容所がワイマールに設立されました。「労働力配置総監」（1942）として、ザウケルはヨーロッパ占領地区から労働者となり得る者を強制連行しました。1944年に彼はエアフルト行政区の統治権も与えられました。戦争犯罪と人道に対する罪のため、1946年にザウケルは主要な戦争犯罪者に対するニュルンベルク裁判で死刑判決を受けました。



ブーヘンヴァルト強制収容所（1937-1945）の正面玄関。

7. 強制収容所、兵器、強制労働

ザウケルは、ズールのシンプソン産業の「恐ろしい」収用を通じて、武器の再軍備から成長した産業帝国（ヴィルヘルム・グストロフ財団）を構築することができました。

1937年に建てられたブーヘンヴァルト強制収容所は、ドイツ領域にある3つの主要な強制収容所の1つでした。この強制収容所では、56,000人以上が非人道的な労働条件と刑罰により殺害されました。これは第3米軍による解放まで続きました。主要な強制収容所の他に、従属する強制収容所が複数の場所にありました。ノルトハウゼン近くのみッテルバウ＝ドーラ強制収容所は中でも特に重要視されていました。この最後の強制収容所は飛行爆弾やロケットを作ることを専門とした、第二次世界大戦最大の地下武器工場でした。

戦争中、フリッツ・ザウケルは他の武器産業をテューリンゲンに移そうとしました。彼はヨーロッパ中から労働者を強制連行していました。例えば1942年には、主に東ヨーロッパから270万人が「ザウケルキャンペーン」としてドイツに強制連行されました。強制労働者はひどい労働条件と生活条件の下で搾取されました。



LZT

ドイツ民主共和国（DDR、通称東ドイツ）の通貨、20マルク。

8. ドイツの分割

第二次世界大戦後、テューリンゲン州はソビエト占領地域に属し、1949 年に DDR（ドイツ民主共和国；通称東ドイツ）が誕生しました。アメリカ合衆国とソビエト連邦の間の冷戦により、ドイツは分割されました。ドイツ内陸部の国境は、1393 km にも亘りドイツ全体に広がっていました。1945 年から 1961 年に掛けて、300 万人以上が東ドイツから西ドイツへと逃れました。

旧東ドイツの支配政党であるドイツ社会主義統一党 (SED) は、人々が逃亡してしまう政策を変えず、世界で最も突き通せない境界線を構築させました。これが国を安定させる唯一の方法でした。テューリンゲン州の住民は居住地を自由に選択する権利を失いました。テューリンゲン州をバイエルン州、ヘッセン州、ニーダーザクセン州から隔てる境界線の長さは 763 キロメートルでした。何百人もの人々が東ドイツを離れようとして死亡しました。1989 年 11 月 9 日に国境が開かれた後、何千人もの人々が東ドイツから西ドイツへ移動しました。



[Wikimedia Commons](#)

東独平和革命の象徴。紋章のないドイツ民主共和国（東ドイツ）の旗。

9. 1989 年の東独平和革命

チューリンゲン州は東独平和革命の中心地の 1 つではありませんでしたが、5 月 7 日の地方選挙の結果が偽造された後、抗議の声が高まりました。教会の保護下にある市民の運動は、初期の東独平和革命の中心的主体でした。

場合によっては、特定の地域条件（独裁政治家、公害、物資の不足、内部都市の崩壊）が国民の怒りを買いました。チューリンゲン州の多くの都市や町で、毎週行われた平和のための祈りに参加する人々の数が増えていきました。これに加えて、秋の抗議運動も行われ、最も重要だったのは、10 月 7 日のアルンシュタット、10 月 23 日のイエナ、10 月 27 日のノルトハウゼン、11 月 3 日のエアフルトで行われるものでした。ベルリンの壁の崩壊後、チューリンゲン州は東ドイツと西ドイツの人々の出会いの場として、特別な役割を果たしました。



LZT

エアフルトにあるテューリンゲン州議会の新しい議事堂（2003 年以降）

10. テューリングゲン州の再構成

1990 年 10 月 3 日、テューリングゲン州は、エアフルト、ゲーラ、およびズールの 3 つの地区の統合により州として設立されました。その後シュメルン、アルテンブルク、およびアルターンもテューリングゲン州に統合されました。

同じ年に、初めての州選挙が行われました。最初のテューリングゲン州議会は、1990 年 10 月 25 日にワイマールドイツ国立劇場で開かれました。1991 年にエアフルトはテューリングゲン州議会議事堂を持つ州都になりました。テューリングゲン州の紋章は、伝統的な色使いのライオンの紋章で、テューリングゲン州の土地の伝統が活かされています。

他の歴史的言及としては、ワイマール共和国で以前に呼ばれていたように、その領域が「テューリングゲン自由州」としてそのまま指定されたことです。

1993 年、テューリングゲン自由州の憲法がヴァルトブルク城で正式に採択されました。



1909年に建てられたマイニンゲン宮廷劇場。

11. 古典主義の都ワイマール

テューリンゲン州の文化的景観は、「ワイマール古典主義」（1775-1832）の特徴が今日に至るまで続いています。アンナ・アマリア公爵夫人の「ワイマールの中庭」と彼女の息子カール・アウグスト（1775-1828）の治世は、ワイマールに多くの作家や芸術家をもたらしました。

ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテは、アンナ・アマリアと共に人生のほとんどをワイマールで過ごし、そこで多くの文学作品を書きました。しかし、フリードリヒ・シラー、クリストフ・マルティン・ヴィーラント、ヨハン・ゴットフリート・ヘルダー等、他にも有名な作家がワイマール古典主義を形作りました。同時に、イエナは理想主義哲学（フィヒテ、シェリング、ヘーゲル）と初期ロマン主義（シュレーゲル、ティーク、ブレンターノ、ノヴァーリス）の中心地でした。

作曲家のフランツ・リストは、多くのテューリンゲンの都市（アイゼナハ、ゾンダースハウゼン、エアフルトを含む）で働いていました。ワイマールでは、1872年にドイツで最初のオーケストラ学校を設立しました。

マイニンゲン市の「劇場公爵」ゲオルク 2 世（1866-1914）は、演劇作品と現代演劇の創始者として、また劇場の創設者として、ヨーロッパ規模で演劇の振興に尽くしました。



Diego Sebastián Crescentino

ワイマールのバウハウスの博覧会のために建てられた「ハウスアムホルン」

12. ワイマール国立バウハウス (1919-1925)

帝国の崩壊後、芸術分野にも新たな進展がありました。目的は、オブジェクトの機能性に焦点が置かれた現代の産業社会に芸術を合わせることにありました。1919年にヴァルター・グロピウスはテューリンゲン州政府から「ワイマール州のバウハウス」の創立者且つ初代校長に任命されました。バウハウスは2つの既存の機関の合併により新たに設立されたものでした。ワイマールでは、バウハウス宣言で規定されているように、新しい時代の美学と工芸の原則が伝えられました。

グロピウスは、ヨーロッパの芸術の前衛をワイマールに呼び、バウハウス等で教鞭をとりました。とりわけ、ワシリー・カンディンスキー（1866-1944）とパウル・クレー（1879-1940）が出席しました。設立以来、バウハウスは保守派からの批判的な圧力にさらされてきました。

州議会で激化する政治的対立の中で、バウハウスはさまざまな利害をもたらす議論的となりました。長い議論の結果、バウハウスは1925年にデッサウに移転しました。



Diego Sebastián Crescentino

ワイマールにあるバウハウス大学。



Landeszentrale für
politische Bildung
Thüringen

